

あいち森と緑づくり環境活動・学習推進事業

鞍掛山麓千枚田保存会は愛知県が平成21年度から導入した「あいち森と緑づくり税」を財源としたあいち森と緑づくり環境活動・学習推進事業の企画提案に応募、採択され、四谷の千枚田周辺の景観、環境整備、ゆとりある地域づくり等々に地域の自主性や想像力を活かした活動を「連谷お助け隊」と実施。村も明るくなり、地域の団結力も一層闊達になりました。

主な実施項目

実施期間 平成21年8月～平成22年2月

実施場所 新城市四谷(千枚田周辺)

事業概要及び実施項目(主な事業)

○ 里地里山環境に配慮した千枚田周辺の環境整備(作業整備散策道、四阿の整備、周辺の草刈り、県道、市道、私有地等の障害木の徐伐など)の習得

①環境整備活動:千枚田周辺の環境整備活動(9/6) 外資系製薬会社アストラゼネカ社員(117名 地元40名)による台風18号復旧活動(10/9)・・・社員の献身的な活動に千枚田の耕作者はもとより地域住民の喜びは語り草となった。皆 感涙(10/9)

②生活道環境整備:松下地区を主体に連谷校区の障害木や倒木の徐伐、日溜まり確保、冬季凍結によるスリップ事故多発場所の除伐整備(11/8)

③景観道(作業道)の陥没カ所の補修作業(2/7 2/14)

○ 里地里山生態系をテーマにした自然観察会の開催

事業が採択された9月以降は稲作体験、ウォーキング、視察(過疎対策、獣害対策、むらづくり)、観察会等々に里地里山など生物多様性を重視した環境活動をメニューにハンドマイク、プロジェクターの活用効果が大きかった。

特に、農林水産省・環境省主催の「田園自然再生活動コンクール」において農林水産大臣賞受賞に輝いたのも、豊かな自然環境の保全、再生活動の取り組みや伝承文化、稲作体験、自然観察会、都市交流や企業との連携、また、「四谷の千枚田だより」を通して棚田のすばらしさ、活動内容を多方面に発信できたことなども総合的に優れている点が評価された。



②生活道環境整備



AZ 社員災害復旧支援



四谷の

千枚田だより



第79号

梅花舞う季節は
ずれの氷雪に
寒さこごえる
たべらつこ

三月十日(舜)

横浜ゴム新入社員研修

四月七日、横浜ゴム新城工場新規採用社員の職場研修が四谷の千枚田で行われる。

平成十八年から、横浜ゴム新城工場は「四谷の千枚田」で新規社員研修を兼ねた景観活動のお手伝いをいただいている。また、横浜ゴムは工場敷地内にドングリなどを植え、CO2削減に他企業よりいち早く取り組み、企業貢献度としても全国的に評価が高い。

このドングリ作戦に少しでもお役に立てばと、生産性の低い棚田の百姓の稲藁(湧き水、天日干しの環境に優しい)を毎年、高価で購入していただいております、地域全体から大変喜ばれている。

大阪府若手職員

二月二十六日、大阪府の農林行政(府北部・中部・南河内・泉州農と緑の総合事務所)に携わる若手職員四名がプロジェクトを組み「府民が支える農空間く遊休農地の解消に向けての一考察」と題して四谷の千枚田を訪れた。今回、訪れた経緯は全国農村振興技術連盟「農村振興」第七一八号の十月号に小山舜二が寄稿した「四谷の千枚田から」を読み、現地視察を兼ねた勉強会のため訪れた。まず、大都会である大阪に一千へ

クターも遊休農地があると聞き、ビックリした。大阪府は遊休農地の解消に「農空間保全地域制度」(平成二十年四月施行)を制定。多様な担い手の育成。農空間を守る。安心安全な農産物の供給。を条例の三本柱に掲げている。

質問事項の一部

Q1 組織作りの背景や経緯

A1 棚田の保存、行政の受け皿

Q2 組織づくりで苦労したこと

A2 耕作者の理解を得るまでに時間がかかった。(有名になると遊びに来る人が多くなり農作業に邪魔だ等々)

Q3 運営上の問題点

A3 資金不足

Q4 今後の展開

A4 耕作者の平均年齢は六十二才、まだ、全国的に若い年代層である。耕作者は、先祖の遺産を次世代に継承する意思が強く、あまり心配はしていない。

Q5 今後の展開

A5 棚田を核にした「むらづくり」特に、連谷お助け隊の活動がめざましい。

Q6 活動と行政への期待

A6 すべての事業、イベント、ボランティア活動等々は行政と手を取り合っって良い雰囲気です実施している。

Q7 遊休農地の解消は

A7 棚田全体が景観、環境に優れており、獣害対策(イノシシ)の効果もあり、耕作意欲が比較的強い。

四谷の千枚田の遊休農地の少ない理由：かつて千二百九十六枚あった水田も米あまり対策で減反を余儀なくされた。厳しい棚田を先人が血と汗で築いた貴重な遺産、結晶である棚田をむやみやたらに放棄する事はできない(DNA)

「四谷の千枚田だより」や寄稿文を読んだ問い合わせや、来訪者の事情を聞くと、一旦、休耕や耕作放棄地を復田した田んぼは「楽」を経験しているからなかなか長続きしない傾向が伺える。



テレビ放送のお知らせ

○三月二十四日より、午後七時から、ケーブルテレビ市政番組「いいじゃん新城」の三月四週ほのかだより「キラリ★見いっつけた!」の番組のなかで鞍掛山麓千枚田保存会が農林水産大臣賞受賞の内容が放送される。

○四月九日、十六日、BS・JAP AN、午後八時から「っぽん原風景紀行」の放送が予定されている。

げんげな轟

「かなつんぼ」

この頃の年寄りにやあ 参っちゃうぞん：何んただだん：耳が遠いようなふりをしとつても、ちゃんと聞こえとるだでノン、内緒話もできりやあせんぞん：ふんとおだのん、大事なこたあ聞こえんようなふりよおしとつても、いらんこたあみんな聞こえとるだでノン……

年が寄ってくると耳は自然に遠くなり、人との会話も聞き取りにくく声も大きくなる。普通の会話は自然体で喋るから聞き取りにくい、悪口や聞かせたくない話はどうしてもボソボソと低音で喋る。一度、悪口を高音(金切り声)で喋ってみて、聴こえているかどうか試してみたらどんなものか。

行 平成二十二年三月十五日

鞍掛山麓千枚田保存会

発 文 責 小山舜二